

INTERVIEW

上流工程から試験までに、
オフショア開発を拡大

システム開発・運用管理などを海外へアウトソースする企業が増加しており、中国を中心に日本からのアウトソーシングが急拡大している。NTTデータでは、SI競争力の強化に向けて、オフショアの活用を積極的に推進している。製造工程中心ではなく、上流工程から一貫して低コスト、高品質のオフショア開発を目指すNTTデータの取組みについて、山田伸一執行役員・基盤システム事業本部長にうかがった。



(株)NTTデータ 執行役員
基盤システム事業本部長

山田 伸一氏

オフショア開発は、試す段階から、活用範囲を拡大する段階へ

——最近、ソフトウェアのオフショア開発をはじめ運用管理などを海外へアウトソースする企業が増えていますが…。

山田 オフショアへのアウトソーシングの狙いは、どの会社も同じだと思います。一義的には、コストを下げたいということと、優秀な人材の技術力を利用したいということの2つがあげられます。オフショア先としては、中国やインドなどが中心となっています。NTTデータの、現在のオフショア先は、長いお付き合い

いのある中国がほとんどです。日本のSI事業者としては、約10年前という比較的早い時期から中国とのお付き合いをしてきています。当初、中国で中国国内のシステム構築を行うために集めた人材が、現在日本向けのオフショア開発を行う部隊のコアになっています。その意味では、NTTデータ流の仕事の仕方にも慣れていて、日本語能力の高い技術者を多数擁しています。

——その中核となるのが、1998年に設立された現地法人の北京NTT DATA 系统集成有限公司ですね。

山田 そうです。当初、中国の国内

システムの構築に主眼を置いていましたが、2002年からは全社をあげて中国へのアウトソーシングを拡大する取組みを開始しています。

——具体的には、どのような取組みをおこなっていますか。

山田 オフショア開発を試す段階から活用範囲を拡大する段階にきたと捉えており、一つにはNTTデータからグループ子会社やビジネスパートナーに発注し、そこで設計書を展開してから製造をオフショアで行うといったように、発注形態の多様化によってボリュームを増やすという取組みです。もう一つは、社内の開発標準を行っている技術部隊を中国の子会社に送り込み、中国での仕事の進め方を見ながら我々の開発標準を見直す取組みを行っています。

製造工程中心から、上流工程から一貫して活用できる形態に

——例えば、ソフトウェアの開発について、オフショアでの開発規模はどの程度ですか。

山田 規模的にはまだまだほんのわ

★発注形態が、多様化し、オフショアの活用が拡大している

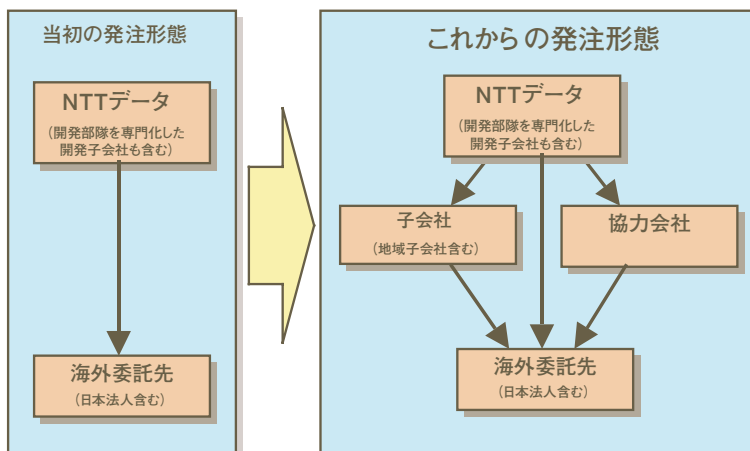


図1 オフショアへの発注形態の多様化

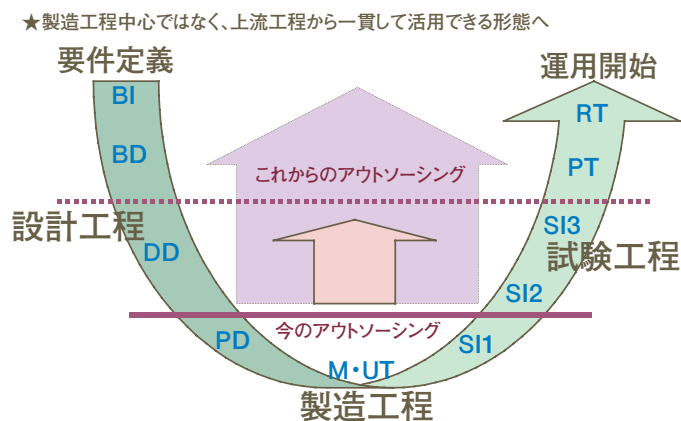


図2 製造工程中心から設計～試験までに拡大

ずかです。しかし、SI競争力の強化という観点で、今後オフショアでの開発を増やしていかなければならないと考えていますし、案件によってはそれがマストになる場合があります。これまでは、主に業務システムにおけるソフトウェア製造工程を中国に委託していましたが、今後は製造工程中心ではなく、上流工程の設計から試験工程までに拡大していきたいと考えています。上流工程から一貫してオフショアを活用することによって、製造部分ではしっかりとコストを下げつつ、上流工程と試験周りを手厚くすることによってトータルでより高品質なシステムを、リーズナブルなコストでお届けできるようにしていきたいと思っています。すでに、上流工程を含めたオフショア開発案件をいくつか手掛けています。言葉や習慣の違いからくるコミュニケーション不足などに起因する納期や品質に関するトラブルを回避しようとする、ブリッジSEなど、それなりの要員の手当が必要になりますので、急激には拡大しないと思

います。もちろんブリッジSEの業務ノウハウの問題もあり、案件次第では請けられないものもありますが、もっと中国に出して欲しいというお客様もいます。

——今までのご経験から、オフショア開発で留意すべきポイントとしてどんな点があげられますか。

山田 一番のポイントは、作業要領も含め日本での開発と同様に、やるべきことを海外でもきちんと行うことです。そのうえで、曖昧にしない、仕様を早めに決めるといったことが重要です。例えば、“以上”とか“以下”とか書くよりは、不等号で書いたほうが良いし、自然言語で記述するよりは、表形式のフォーマットにするほうが良いわけです。

TERASOLUNA Expressの適用による低コスト・高品質化

——開発標準を行っている技術部隊を中国の現地子会社に派遣しているということですが…。

山田 オフショア開発のより一層の改善に向け、私どものシステム方式

いますが、まずは中国子会社でのノウハウ蓄積に努めているところ

です。——上流工程からオフショアというお客様の要望もあるのですか。

山田 ござ

技術BUに「TERASOLUNA海外技術サポート室」を設け、TERASOLUNAの部隊の一部を中国の子会社に置いて、TERASOLUNAを使用したより高品質でより安価な開発の定着化を目指しています。中国であっても、生産性を上げていかないと、競争力の強化にはつながらないと思います。

——TERASOLUNAは、プロジェクト管理、開発プロセス、フレームワークを一体としたWebシステム開発の統合ソリューションですが、これを中国向けにアレンジしている。

山田 中国でのオフショア開発がやりやすいようにすることに加えて、TERASOLUNAに関する中国の技術者の評価をフィードバックするようにしています。すでに、TERASOLUNAをより簡単にしたサブセット版のTERASOLUNA Expressを提供し始めています。これにより、テラリングレスな開発スタイルの提供によりプロジェクトの早期立ち上がり、表形式のフォーマットによる曖昧さの減少、設計から試験までツールによる成果物間の情報連携が図れるものと期待しています。

——最後に、オフショア開発に向けた今後の抱負をお聞かせください。

山田 オフショア先として、リスクヘッジの意味からも、中国以外のインド、ベトナムも視野に入れており、特にベトナムには今後力を入れていきたいと思っています。

——本日は有り難うございました。

(聞き手・構成：編集長 河西義人)